

---

# バカとテストと召喚獣 ~ 偽の兄と正の妹 ~

籍倫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣〜偽の兄と正の妹〜

### 【Nコード】

N3487Z

### 【作者名】

籍倫

### 【あらすじ】

両親の離婚。その結果二人暮らしをしている双子の兄妹。自称「偽善者」の兄と、自分に正直に生きる妹。そんな二人とFクラス、そして文月学園が関わり合う学園生活です。

## プロローグ1 アニさんはシスコンかもねえ（前書き）

皆様初めまして、 籍倫といたします。

初めて書くので至らぬ所が多々あると思います。 そののとこの  
アドバイスを頂けた嬉しいです

## プロローグ1 アニさんはシスコンかもねえ

「アニさんが入りますよ」

「いらっしやい。待ってたよ」

19:00 とある病院に双子の妹の見舞い。 それはアニさんの  
日常の一つ。

「麗さん気分はどうだい？」

「元気だよ。今すぐ退院も出来るくらいにね」

そう言っで微笑む麗さん。 久城麗奈、 アニさんと同じ日に、  
同じ親から生まれた双子の妹。

そして一人称がアニさんという、 少し変わっている自分は久城亜  
仁馬。 今年で高校2年生になる思春期真っ只中のおじさんさ。

「そっかい。それは何よりだよ」

そう言っで鞆から取り出した紙袋を渡す。それを満面の笑みで受け  
取る麗さん。

「いつもありがとう兄さん」

ありがとう。 その言葉を聞くだけで先程までのバイトの疲れも吹  
き飛んでしまう。 シスコン？ そうだねえ、 そっかもしれない  
ねえ。

「あゝ、でも明日の振り分け試験受けれないのかよ。がっかりだ」

肩を落とす麗さん。

麗さんが入院した理由は2週間前に自転車との交通事故で右足を骨折。3日後には退院できるらしいけどしばらくは松葉杖生活だ。

こういう理由で明日の振り分け試験を受けることが出来ない。

麗さんは話し方でも分かるように少し男っぽい所があつて、スポーツ

万能。ただ勉強は出来ない。はっきり言つてバカだから試験受けても受けなくても関係ないと思うんだけどねえ。

「なんか今変なこと思つただろ兄さん」

「いいや、全く。それより頼まれたものはそれであつてるかい？」

「ああ、今確認する」

話をそらすために手に持つている紙袋の確認を促す。危ない危ない。麗さんは勘の鋭さが半端じゃないからねえ。

「うん！これだ！」

麗さんは紙袋の中の本を確認して満足そうに頷く。取り出したのはライトノベル。スポーツ大好きなのと同時にオタク娘でもあるのだ。

ア二さんが買ってきた本は、池袋の首なし女性がなんたらかんたらつていう内容らしいけど、さっぱり分からない。まあ喜んでもらえているからいいけどさ。

明るい表情を浮かべていた麗さん。しかし次の時にはその表情は急変し、暗く、後ろめたそうな表情を浮かべる。

「ごめんな兄さん。生活費だけでも大変なのに入院費やこんな物にまで金使わせちゃって」

「妹がそんなこと気にする必要はないっていつも言ってるでしょ？本だってアニさんが買いたいって言ったんだからさ」

「で、でもさー！」

「いいって言ってるでしょ」

まだ何か言おうとしている麗さんの口を封じる。あ、唇を重ねて封じるとか、そんな甘い展開じゃないよ？流石のアニさんも妹にそんなことはしないから期待しても無駄だよ？

「それじゃあアニさんはそろそろ次のバイトに行くからさ。じゃあね」

「うん。無理するなよ」

「分かってますって」

心配性の妹に手を振り、病室を後にした。

## バカテストNo.1

問 以下の問いに答えなさい。

『調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点。』

『合金の例・・・ジユラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが、姫路さんは引っかかりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点・・・ガス代を払っていなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

久城亜仁馬の答え

『合金の例・・・値の低い金属』

教師のコメント

ケチらないで下さい

久城麗奈の答え

『問題点・・・金属が溶けてしまっ  
て売れなかったこと』

教師のコメント

溶けません。

吉井明久の答え

『合金の例・・・未来合金（  
すぐく強い）』

教師のコメント

『すぐく強いと言われても』



プロローグ2　なんでドイツの矢つてあんなに高いんだろっかねえ？

麗さんと別れて2時間後、居酒屋でのバイトが終わって帰路に  
ついでに途中

ブー、ブー、ブー

マナーモードのしている携帯が鳴った。こんな時間に珍しい、  
誰でしょうかねえ。携帯を開いて画面を確認するとそこには『坂  
本雄二』という文字が表示されていた。  
………何か企んでいるねえ。そんな予感がしたが、  
取り合えず電話に出る。

「もしもしアニさんですよ」

『亜仁馬、Fクラスに入ってくれ』

………いきなり何を言っているんでしょうかねえ。  
そんな意味不明な電話に若干困惑しながらも、会話を続ける。

「えーと、いきなりなんですか雄さん。そんなにアニさんの不  
幸が好きなんですか？」

『いや、明久以外の不幸を喜ぶ趣味はない』

明さんの不幸なら喜ぶのか、とツツコミを入れたかったが聞くま  
でもないことだし、スルーする。

『俺はFクラス代表になってやりたいことがある。それにはお前

が必要だ』

「……雄さん。アンタそっちの気があったのかい？ 悪いけどアニさんはノーマルだからそういうのはちよっと」

『違う！！ 試験召喚戦争のことだ！！』

電話越しで大声で怒鳴る雄さん。あんまり取り乱すと怪しいよ？

「そのために戦力になって欲しいと？ 悪いけどアニさんは真面目にやればギリギリAクラスにはいけるからねえ。それに利益もないでしょ？」

『ムツツリー二の写真20枚』

「麗さんの寝顔写真やら何やら渡したら貰えるから別に興味ないねえ」

『……ひでえ』

麗さんへの同情が込められた呟き。

アニさんは麗さんの好きなライトノベルを買うためにバイトを頑張る。麗さんはアニさんの好きな写真を買ったために写真を撮られる。

そっやって助け合っているだけなんだから別にひどいことはないと思うけどねえ。まあ麗さんの許可は貰ってないけど。

「という訳でこの交渉は決裂というわけで『ま、待て！！』  
まだ何か？ アニさんは利益のないことはやらないよ？」

人間は自分に利益や得がないと動かない生き物だ。いい子ぶって、

『お前の為ならやるよ!』 とか言う人間も、結局はその相手に気に入られたいという理由で動いている。自分で気付いていなくてもね。

そしてアニさんは人間だ。だから利益や得がないことはやらな・  
・  
・

『親父の使っていないハードダーツ5本』

「乗った」

プログラマー なんてドイツの矢ってあんなに高いんだろっねえ？ (後書き)

ハードウェアってびっくりするほど高いんですよ？

第1問 アニさんのスルースキルをなめちゃダメだよ？（前書き）

連続投稿です。感想いただけると嬉しいです。

## 第1問 アニさんのスルースキルをなめちゃダメだよ？

春の暖かい陽射し、 咲き誇る桜。 実に風情のある光景の中で奏でられるのは

「久城兄妹、 遅刻……何をしとるか」

秀囲気をぶち壊す、 ドスのきいた生活指導の教師の声と溜息だった。

「おはようございます、 宗一先生」

「久城兄、 ファーストネームで呼ぶなと言っとるだろうが」

「鉄人よりマシでは？」

「それは論外だ。 まあ、 そんなことより……お前らは朝から何をやっているんだ？」

宗一先生はアニさん達を見て何か疑問を持っていた。 別におかしいところはどこにも……

「兄さん！ いい加減降ろしてくれ！！」

「もしかして、 麗さんのことですか？」

「それしかないだろう！？」

麗さんはアニさんの腕の中で暴れていた。 別に兄妹なんだからお

姫様抱っこくらいで恥ずかしがることないのにねえ。それに麗さんの足のことを考えて抱っこしてあげているのに。

「麗さんは軽いから遠慮しなくてもいいよ？」

「私が恥ずかしいんだ！！」

「それより宗一先生、クラス発表の紙をくれませんか？」

「無視するなあ！！」

麗さんは顔を真っ赤にして抗議するが、アニさんは華麗にスルー。

途中でイジメたくなったアニさんを許してくれ。これも家族としての愛情表現なんだからさ。

「それはいいが、ほら、受け取れ」

宗一先生は二人のやりとりを見て問題ないと判断したようで、アニさんと同じく麗さんのことはスルーして箱から二人分の封筒を取り出した。

「どうも」

それを受け取り、中身も確認せずにポケットに押し込む。

「二人とも、振り分け試験は残念だったな」

「体調管理ができてなかったのが悪いんですから、二人とも気にはしてませんねえ」

「兄さん、 降ろしてよお」

「それに麗さんはバカだから受けても受けなくても結果は同じでしょうから」

「なんだとー!!」

しおらしくなっていた麗さんが、再び暴れ出す。別にアニさんは事実を言っただけだからねえ。宗一先生も無言で頷いているし、ちなみにアニさんは仮病で途中退席でFクラス。もちろん雄さんとのあの約束のためだ。Aクラスにそこまでこだわりも持っていなかったし、報酬のハードダーツが思ったより良い物だったし大満足。

「では先生、 アニさん達はもう行くんで」

「HRはもう始まっているから早く行け」

「はいはい」

「降ろせえーっ!」







## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3487z/>

---

バカとテストと召喚獣～偽の兄と正の妹～

2011年12月12日23時56分発行